

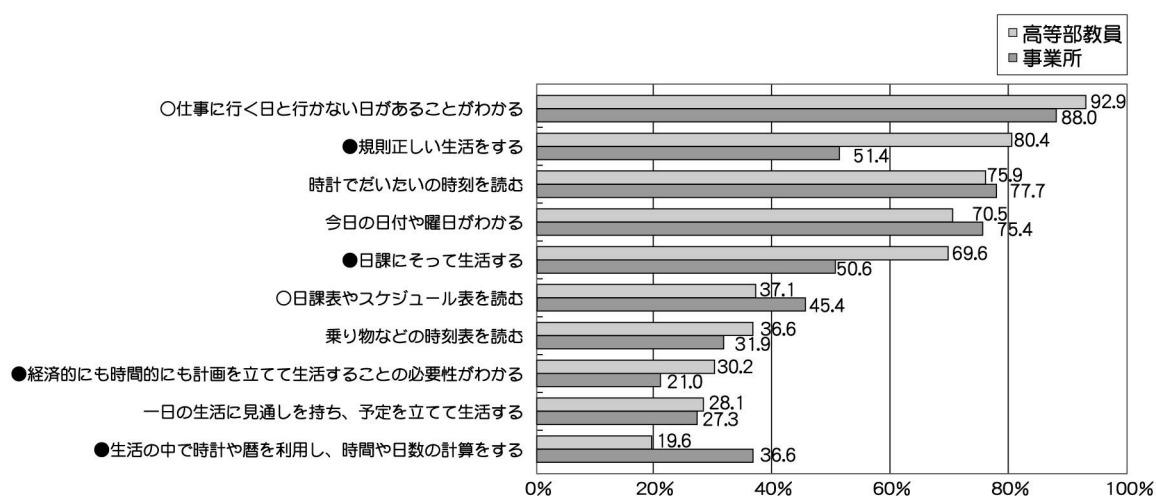


図 3 - 10 時間の理解と管理について

(3) 『移動』について

7 項目中 4 項目に統計的に有意な差が認められた。なお、事業所の回答率が高等部教員の回答率を上回ったのは、「勤めている会社の中で一人で自由に目的の場所まで行く」であり、他の 3 項目では高等部教員の回答率が事業所の回答率を上回った。また、回答率の高さによる課題内での順位に注目すると両者の並び順は異なっており、この課題に関して両者の意見の相違が大きいことがわかる。

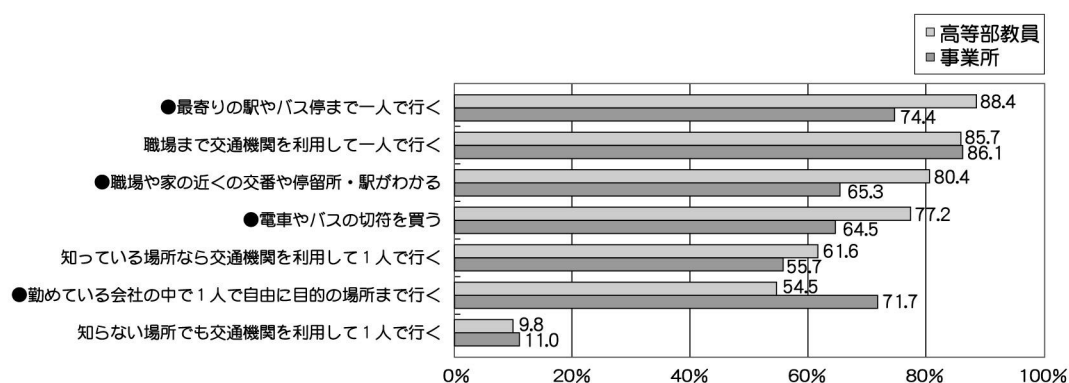


図 3 - 11 移動について

両者の回答を比較すると、「職場まで交通機関を利用して一人で行く」については回答率に差が認められなかったことから、共に“一人で会社まで行けること”を重要と考えていることがわかる。しかしながら、そのためには高等部教員は、「最寄りの駅やバス停まで一人で行けること」そして「電車やバスの切符が買えること」が必要であると考えているのに対し、事業所ではこうした課題達成のためのよ

り基礎的な項目についての回答率は十分に高いとはいえなかった。このことは、知的障害者の課題達成を考える際に、高等部教員が基礎的な課題からの積み重ねを考慮しているのに対し、事業所ではそうした視点からは回答されなかった可能性が考えられる。

（４）『数の理解』について

８項目中７項目に統計的に有意な差が認められた。なお、高等部教員の「必要」への回答率が事業所の回答率を上回ったのは、「簡単な数を数える」１項目であり、他の６項目では事業所の回答率が高等部教員の回答率を上回った。また、回答率の高さによる課題内での順位に注目すると両者の並び順は一部で異なっているものの全体的な傾向は類似している。しかしながら、その一方で回答率の差は大きく、そうした項目については両者の意見の相違が大きいことがわかる。

両者の差に関しては、高等部教員では、簡単な項目については事業所よりも必要度を高く見積もる反面、知的障害者の障害特性から考えて、より困難が高いと考えられる除法や乗法などに関する項目については、必要度の見積もりが低い点があげられる。

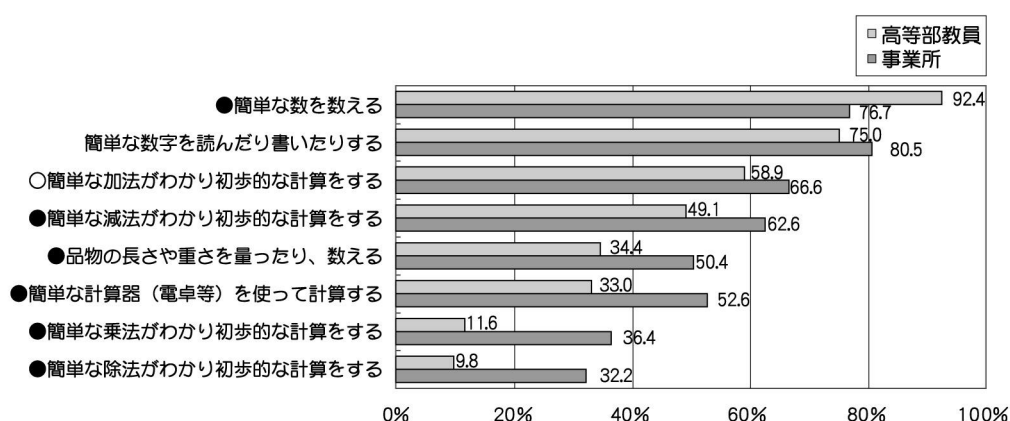


図３－１２ 数の理解について

（５）『言葉の理解』について

７項目中６項目に統計的に有意な差が認められ、それらすべての項目で事業所の「必要」への回答率は高等部教員の回答率を上回った。また、回答率の高さによる課題内での順位に注目すると両者の並び順は異なっており、この課題に関して両者の意見の相違が大きいことがわかる。

特に、両者の差が大きかったのは、「簡単なメモをとる」であり、事業所の57.7%に対して、高等部教員は16.1%であった。なお、「簡単なメモをとる」ためには、より基礎的な「語句や短い文を正しく書く」という力が求められるが、この点についての事業所の回答は34.5%と「簡単なメモをとる」よりも低いものであった。高等部教員の回答が知的障害者の障害特性を考慮し、各項目の難易度を考慮した上での回答であるのに対し、事業所の回答が知的障害者の障害特性をしたものであるというよりは、「仕事」に必要なかどうかについて回答している可能性が考えられる。